

2025 名古屋大学（前期）国語（文・教育・経済）概評

出題分析			
試験時間	105 分	配点 概評参照	大問数 3 題（現代文 1、古文 1、漢文 1）
分量（昨年比較）	〔減少 同程度 増加〕	難易度変化（昨年比較）〔易化 同程度 難化〕	
<p>【概評】</p> <p>※配点は、文学部 400 点、教育学部 600 点、経済学部 500 点。</p> <p>〈現代文〉</p> <p>例年通り評論 1 題構成。本文の量は、特に本文が長かった昨年から半ページほど減少した。接続詞の空欄補充問題が 22 年度以来 3 年ぶりに出題された。記述説明の解答数は 1 つ増加したが、解答総字数は 320 字で例年と同程度。本文は平易な文体で読みやすい。記述説明問題は必要な要素を捉えやすいが、一部の設問では制限字数内でまとめるのに工夫が必要であった。選択問題は、解答に迷った受験生もいただろう。</p> <p>〈古文〉</p> <p>本文の分量は昨年より増加したが、解答量はほぼ変わらない。例年と同様に和歌を含む文章からの出題であった。現代語訳や和歌解釈、内容説明といった典型問題に加えて、昨年に続き文学史が出題された。人物関係や状況の丁寧な把握が求められた上に仏教常識も必要とされ、例年通り難度の高い出題と言える。</p> <p>〈漢文〉</p> <p>本文の分量は昨年より若干短め。難解な箇所が多少あるが、分かりやすい具体例が二つも記されているため、概要は把握しやすかったであろう。設問も標準的であった。最後の 150 字記述は主張の要約。このまとめかたで差がつくと思われる。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文（評論） きたやまおさむ『「むなしさ」の味わい方』	「むなしさ」を自分の外と内に起因するものの二種類に分け、その連動と言葉の「むなしさ」について述べた文章。記述問題は一部に字数内でまとめるのに苦勞する設問があった。漢字 1 問（解答数 8）、空欄補充 1 問（解答数 4）、内容説明 3 問（記述）、理由説明 1 問（記述）、内容合致 1 問の構成。	標準

設問別講評			
二	古文（歴史物語） 『増鏡』	後醍醐天皇の討幕計画失敗で、捕らえられた天皇の側近源具行が、鎌倉に送られる道中で処刑される文章。品詞分解1問、現代語訳1問（解答数3）、和歌の現代語訳1問、和歌に関する説明問題1問、文学史1問（解答数3）の構成。	やや難
三	漢文（文章） 崔述『考信録提要』	ブランド名に惑わされて真の価値が見えなくなるという、古来変わらない人間の性質について論じた文章。問五・問六の現代語訳は、直訳では意味が通じにくい箇所であり、文脈に合わせた表現が求められる。漢字の読み1問（解答数3）、内容説明2問、書き下し1問、現代語訳2問、要約1問の構成。	標準

合格のための学習法

〈現代文〉

まとまった分量の文章を、対比構造や具体と抽象の関係などに注意しながら読む方法を身につけること。そして、「理由説明」「対比・共通の説明」「本文の要約」など様々な形式の記述問題演習を積みたい。また、漢字の読み書き練習は日頃から行っておきたい。接続詞や副詞などの空欄補充問題が出題される年もあるので、練習しておこう。

〈古文〉

まずは単語・文法の知識をある程度固めた上で逐語訳ができるようにすること。その上で、指示語や省略、人物関係を補った解釈文を作れるようにしたい。和歌に関しては、修辞や比喩を踏まえつつ、本文との対応を捉えて精細に解釈する訓練を積みたい。多くの文章に触れることで、古代特有の文化にも親しんでおこう。

〈漢文〉

まずは句法・語法の知識を固めること。その上で、文構造や文脈も踏まえた訓読文作成のため、送り仮名のない文に慣れておきたい。諸子百家など種々の思想や古代中国の文化にも触れておくとも内容理解の助けとなろう。解釈の際には、一字一字を大切に。150字の要約練習も必須。